

CASE STUDY

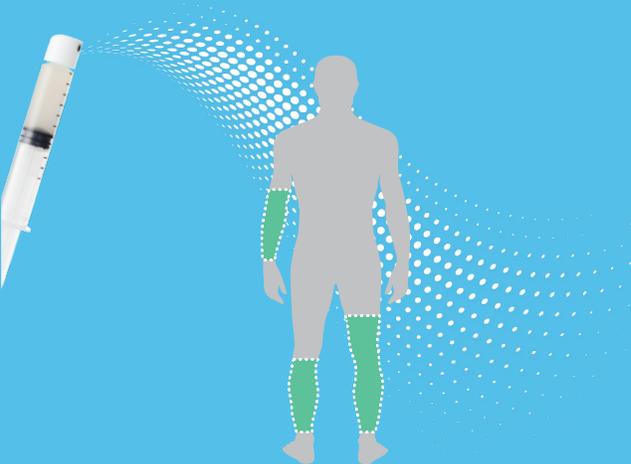
Sydney Smith, PA-C

University Medical Center, New Orleans, LA

患者の状態

両下肢及び左上肢に火炎による10% TBSAの深達性部分層熱傷を受傷した52歳男性。この患者には既往歴および共存疾患は無かった。本症例では、治療アウトカムと7か月フォローアップについて述べる。

RECELL治療部位



結語

本症例では、深達性部分層熱傷への Spray-On Skin Cellsの使用とその良好なアウトカムが示されている。

入院時



術後9日



術後15日



術後2か月



術後7か月



治療法

接線切除術及びVERSAJET[™]を使用し、母床を整え、RECELLシステムを使用してSpray-On Skin[™] Cellsを作成した。採皮は右大腿中央部の熱傷部位近くから行った。治療部位の被覆にはTelfa[™] Clearを使用し、ステイプラーで固定、その後ASSIST[®] Ag、Kerlix[™]及びACE[™]ラップを使用した。患者はその翌日に退院した。

クリニックで術後4日目に二次ドレッシングの交換を行い、術後7日には上肢の全てのドレッシング材除去と、下肢のASSIST Agの除去を行った。術後9日目に両下肢からTelfa Clearの除去を行った。

手および関節部の熱傷におけるRECELL治療の安全性・効果は確立されていない。

臨床的アウトカム

術後7日目には95%を超える再上皮化が得られた。創部およびRECELL採皮部は合併症も無く治癒し、紅斑の大半は治療から1か月が経過するまでに消失した。この患者は術後2週間で仕事に復帰した。患者と医師はどちらもこのアウトカムに満足している。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

